



社会福祉法人 恩賜財団 済生会和歌山病院

〒640-8158 和歌山市十二番丁45番地

TEL. 073-424-5185

FAX. 073-425-6485

ホームページ: <http://www.saiseikai-wakayama.jp/>



済生会

わかやま

NEWS

第38号

発行日: 2018.9



～ 理念 ～

私たちは、地域社会に親しまれ、信頼され、患者さんも職員も元気が出る病院をめざします。

～ 基本方針 ～

1. 急性期医療を基本に機能と特性を明確にする。
2. 患者さんの立場に立って、安全で質の高い医療を効率的に提供する。
3. 透明性、公共性を保ち、地域社会と連携を密にし、地域から求められる病院にする。

患者さんの権利と責務

1. 平等に良質で適切な医療を受ける権利があります。
2. 医療に際して十分な説明を受ける権利があります。
3. 検査・治療等に際してそれを受ける事を自己の判断のもと承諾あるいは、拒否する権利があります。
4. 医療のどの段階においても他の医師や医療機関の意見を求める権利があります。
5. 自己の病状について情報を得る権利があります。
6. 自己の病状について個人的情報の秘密を守られる権利があります。
7. 医療に関する苦情を申し立てる権利があります。
8. 良質な医療を実現するために、自己の健康状態に関する情報を正確に伝える責務があります。
9. 治療費を支払う責務があります。
10. 良好な療養生活を守るために、定められた諸規則を守る責務があります。
11. 医師・看護師や病院職員の指示に従う責務があります。

— Information —

この度、地域連携室長を拝命致しました消化器内科の川口でございます。私は当院に平成10年に着任してから今年で20年になります。これまでに地域の先生方、医療スタッフの方から患者さんを通じて沢山の貴重な経験をさせて頂き大変お世話になっております。当地域連携室は当院がこの十二番丁の地に移転した平成15年に元院長の井関が開設し、初代地域連携室長の山本、前任の重里が発展させて参りました。私はまだまだ若輩者ですが微力ながら皆様のお役に立つよう頑張りたいと思います。

済生会和歌山病院は和歌山市内において二次救急医療体制、各専門領域の最新治療、福祉を行うという使命があると理解しております。我が国のプロジェクトとして2025年に向けて地域包括ケアを作り上げることは待たなしですが、これからは単に病院に来る患者さんを診るだけでは病院の発展はないと思います。我々が積極的に地域に出向き、医療と福祉を行うことが重要であります。これを実際に動かすためには、病院と先生方、医療スタッフの方との調整役として、地域連携室の果たす役割は非常に重要であると思います。地道に紹介状等によりやり取りをきちんと行うこと、研究会における先生方との症例の共有、生涯教育、臨床研究、また専門医制度の改変による修練医の地域医療教育を実践して行きたいと思っております。当院は和歌山市の中心部にあるため、「近隣の病院」として、いろいろな医師、研修医が往来しておりますが、例えばある患者さんが来られた場合、当院だけで全てを完結するのではなく、良い選択肢を先生方に提示して、お互いに患者さんの視点に立った医療ができるように、システムを構築できればと思います。一昨年熊本地震の際に、済生会熊本病院に応援診療に行かせて頂きましたが、その時に痛切に感じたことは、大病院がいくつも林立しているために病院間の競争が激しいのでは？ と思いました。実際は、早期に患者の病状を適確に把握して、必要な治療があればその地域でもっとも得意にされている先生のいる病院に転送し、その地域で最高の治療を受けて頂くシステムができているという点です。当院はベッド数、医師数が近隣の公的病院に比べると少ない病院ですが、それぞれの診療領域の強みを生かして行く必要がございます。10月からは和歌山県立医科大学消化器外科教室より外科(消化器)が開設となりますので、地域の先生方によりよい医療を提供できると思っております。

当院の強みである先生方とのごっくばらんな連携をよりいっそう強め、共に地域に根差した医療が出来れば幸いです。スタッフ共々、今後とも御指導の程よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

地域医療連携室室長
(消化器内科部長)
川口 雅功





海草橋の風景

昭和63年の暮れ、天皇陛下の病気が思わしくなく、世間全体が浮足立っているときに、和歌山医大第一外科の内藤教授から「開業される太田先生の後釜で、済生会外科へ3年くらい行ってくれ。」と言われ、昭和64年、1月1日に僕は済生会和歌山病院 外科に赴任しました。病院の前に川が走り、その川向うに駐車場を借りて、海草橋という小さな橋を渡って病院に通勤する生活となりました。

赴任してすぐに昭和天皇が崩御され、年号が平成に変わりました。当時の済生会病院はこれといった特徴はなく、住民のニーズに合わせた診療をしていました。手術症例も少なく、癌の末期や慢性病の長期入院患者さんが多かったように思います。小さな病院だったので、院長の井関先生の明るいお人柄もあって、外科と内科等の他の科との交流が多く、勉強になりました。外科手術を増やすためには、良い内科医の育成が大事だと痛感しました。そして、若手で赴任してきた消化器内科の川口先生が済生会の希望の星となって、彼の成長とともに病院は発展してきたと思います。

僕は済生会に来る前は、和歌山医大第一外科、紀北分院外科で、主に、心臓血管外科、呼吸器、食道外科の仕事をしていました。済生会病院では、肝臓外科、直腸外科の症例が多く、その手術には自信がありませんでした。そこで、和歌山医大の消化器外科出身の名外科医と言われていた、河野先生（永山病院）、田伏先生（南大阪病院）、小林先生（労災病院）に手術の指導をお願いしました。科は違いますが、同じ和歌山医大の同窓だということで、快く引き受けていただき、お忙しい中、時間を割いて済生会に来ていただき、見事な手術を見せてくれました。

赴任当初は、外科は医長の僕を含め2人体制でしたが、ほどなく3人体制となりました。

その時同僚となった後輩たちにも教えられました。鈴間先生（後の紀北分院助教授）には、無理せず働くことの大切さを、関井先生（後の放浪の外科医）には、あきらめずに手術を頑張ることを、木下先生（後の南和歌山病院診療部長）には、患者獲得のための努力の大切さを、北川先生（後の赤穂市民病院心臓血管外科部長）には、どんな些細なことでも学会発表、論文作成をしていく大切さを、川崎先生（後の南和歌山病院救急部長）には手術の時の左手使いかたを、駒井先生（後の関西医大血管外科教授）からはクールでスマートな仕事ぶりを～その他、たくさん後輩からいろいろなことを学びました。先輩がたのご指導と、後輩たちや、手術を手伝ってくださる北山先生のような仲間たちに助けられて、徐々に手術数は増えていきました。

赴任して10年くらいたつと、海草橋を渡る時の朝、夕の街の風情が、都市の中の小さな田舎のようで、「ここが自分のふるさとなのか?」と思えるようになりました。ところが、そのころから病院改革の波が済生会和歌山病院にも押し寄せてきました。何度も会議を重ねた結果、急性期病院としてやっていくことを選択したのでした。しかし当時は、急性期病院として医師たちの仕事内容も、病院の建物自体も不適合でした。

そこで脳神経外科を立ち上げるために、労災病院から仲先生を招聘しました。そして病院移転が必要となり、羽陽曲折の結果、現在の場所への移転を行うことになりました。そして心臓カテーテル検査ができるように、循環器内科部長に山本先生に来ていただき、急性期病院としてのスタートをきりました。

体制は整いましたが、問題は山積していました。中でも一番の問題は病院の立地でした。現在の済生会和歌山病院は和歌山医大が紀三井寺へ移転する前の建物の一部をリフォームしたものです。移転した当時は病院の建物の周囲は堀に囲まれた広大な更地でした。病院からは、目の前に和歌山城に雄姿がどこからでも拝めました。周囲に何もないので、職員は市役所横の駐車場に車を止めて、数分歩いて出勤していました。周りに住居はなく、以前の地域の街に密着した立地を思うと不安になりました。

しかしその不安を払拭するように、脳神経外科、循環器内科が頑張って救急患者さんをたくさんとってくれました、外科もそれに合わせるように血管



外科手術に力を入れ、「頭先从から足の先まで血管病を診れる病院。」を キャッチフレーズにして、今では、血管外科では、和歌山県で一番の症例数を扱うようになりました。更地だったところにも、ロイヤルパーキングができ、ダイワロイネットホテルができ、ワジマビルやいろいろなグルメスポットが次々に誕生し、病院の境界は、和歌山での有数のきれいで豊かな地区に変貌しました。

自分が居た30年間の間に、約13000件の手術を行うことができました。定年退職を迎えるにつき、その診療面での思い出とともに、病院とその周辺の街の思い出は、忘れることはないと思います。

海草橋も新しくなり、その付近の風情も多少変わりましたが、古き良き懐かしい下町の情景が残っています。今の病院境界の美しさが済生会和歌山病院の発展とともに、いつまでも続けばいいなと思っています。

2018年 7月末日

～ 血管内視鏡の使用経験 ～

日頃より支援を賜りますよう心よりお礼を申し上げます。

済生会和歌山病院 心臓血管外科では、循環器内科、脳神経外科、糖尿病代謝内科、腎センター支援のもと全身の動脈硬化性疾患を包括的に管理治療していく“Total Vascular Care”を実践しています。低侵襲なカテーテル治療に加えて外科的血行再建、創部処置を含めて患者さんに最適な治療を行い、地域に根差した質の高い全身血管診療を展開したいと考えています。

近年、高齢化や糖尿病・透析患者さんの増加により全身状態の低下した治療に難渋する症例が増加してきております。それに伴いカテーテル治療が増加してきております。

その際に病変部の識別を行う必要があります。その時に、血管内視鏡が有用と考えられます。

今回、カテーテル治療の際の新しい機器（血管内視鏡Zemporshe）について紹介します。

従来の血管内視鏡は、イメージファイバーと導光ファイバーの光ファイバーを組み合わせで作られておるアナログ式のために画像の鮮明さに欠けて十分な観察ができませんでした。

血管内視鏡Zemporsheは、カテーテル先端に48万画素のイメージセンサーを搭載するデジタル式にすることにより、鮮明な画像を見ることが出来るようになりました。



心臓血管外科部長
畑田 充俊

実際の症例

82歳 男性

主 訴：安静時左足趾疼痛

既往歴：肺癌、肝癌、狭心症、糖尿病、高血圧、認知症

現病歴：左下肢に繰り返し血管内治療を施行していました。最近、左下肢安静時疼痛出現し、当科受診しました。

左岸径より順行性アプローチで手技を施行。造影で前回のステント再狭窄と新規病変を認めました。血管内視鏡で、末梢側のステント再狭窄は内膜肥厚で、中枢側のステントは血栓による閉塞でした(図1)。

末梢側のステント再狭窄はバルーンでの拡張を行いました。中枢側のステント再狭窄は、血栓による閉塞のためにステントを留置しました。ステント留置により血管内腔を確保することが出来ました(図2)。これにより血行再建に成功することが出来ました。

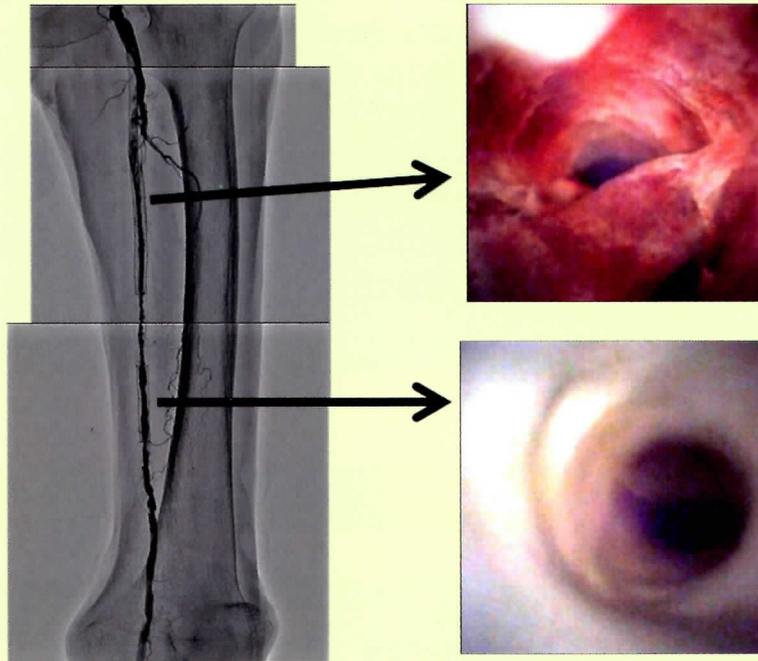


図 1

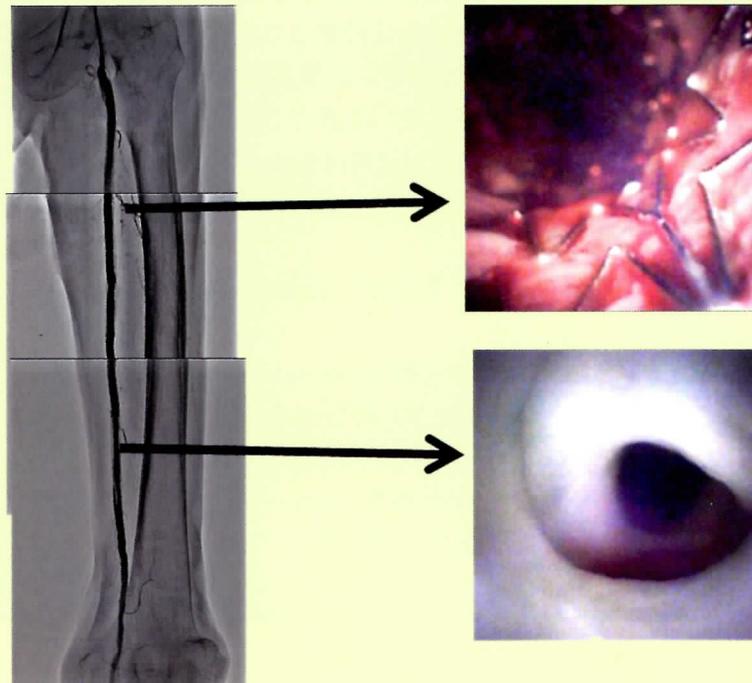


図 2

血管内視鏡を使用することにより血管内部の詳細な状況が確認できます。本症例のようにステント再狭窄の原因が新鮮血栓または血管内膜肥厚であることが判り、治療法をそれぞれに選択することが出来ました。つまり、血栓閉塞に対しては、ステント留置を行い、内膜肥厚に対してはバルーン拡張をおこなうことにより血流の確保が出来ました。

血管造影や血管内超音波などに加えて、血管内視鏡を使用することにより最適な治療法の選択が可能となると考えております。

外科的治療に加え、低侵襲なカテーテル治療までを地域に根差した質の高い全身血管診療を展開したいと考えています。またさらにはそれぞれの状態を適切に診断・把握する事で、生命予後改善につながる、全身的治療の提案が出来ればと考えています。

今後共より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

～ 赴任のお知らせ ～



整形外科
野中 研人 医師

平成30年7月から赴任しました整形外科の野中研人(のなか けん)と申します。和歌山県立医科大学を卒業し同大学の整形外科に入局しています。一般外傷や変性疾患などを中心に、整形外科一般の疾患を診療させていただきます。

至らぬ点多々あり、ご迷惑もおかけすることとは思いますが、日々勉強し精進して参りますので何卒宜しくお願いいたします。

趣味:テニス、ダイビング、旅行 好きな食べ物:肉、寿司



整形外科
西岡 修平 医師

整形外科の西岡修平(にしおかしゅうへい)と申します。7月から済生会和歌山病院でお世話になっております。外傷と関節外科を中心に勉強しています。至らぬ点多々ありますが、和歌山市の医療に貢献できるように研鑽していきたいと思っております。

よろしくお願い申し上げます。

ドライブ、カメラ 好きな食べ物:パスタ

～登録医総会開催のお知らせ～

7月7日(土) 15時～ ダイワロイネットホテルにて登録医総会を行いました。

今年もたくさんの先生方にご参加いただき、ありがとうございました。

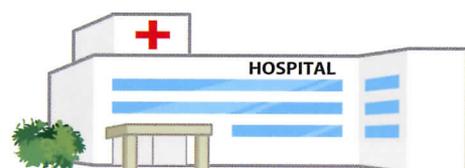
今回の特別講演は、医療法人昭陽会 和歌山南放射線科クリニック 寺田正樹先生による『がん診療におけるFDG-PET検査の現状』についてご講演いただきました。

たくさんのPET画像を用いた事例紹介をしていただき、登録医の先生方からも大変好評でした。

今後も、先生方の日々の診療に役立てていただけるような講演ができればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次回登録医総会は2019年7月27日15時～ダイワロイネットホテルで予定しております。

どうぞ参加いただきますよう宜しくお願いいたします。



済生会和歌山病院外来診療予定表

(平成30年10月1日現在)

区分	月	火	水	木	金	
内科	消化器内科	山原 邦浩	—	山原 邦浩	河野 尚宏	川口 雅功
		河野 尚宏	—	川口 雅功	—	—
	糖尿病代謝内科	—	玉川 えり	—	山本 昇平	—
		山本 昇平	英 肇	荒古 道子	英 肇	荒古 道子
	循環器内科	—	—	—	—	大鹿 裕之
		尾鼻 正弘	大鹿 裕之	尾鼻 正弘	下角 あい子	下角 あい子
脳神経外科	廣緒 洋子	小倉 光博	小倉 光博 (もの忘れ外来)	小倉 光博 (もの忘れ外来)	▲仲 寛 山家 弘雄	
	三木 潤一郎	—	廣緒 洋子	三木 潤一郎	—	
外科(消化器)	堀田 司	交代制	堀田 司	交代制	石田 興一郎	
	重河 嘉靖		石田 興一郎		重河 嘉靖	
心臓血管外科	畑田 充俊	高垣 有作	栗山 雄幸	栗山 雄幸	畑田 充俊	
整形外科	谷上 正純	久保井 勇樹	新患診 (交代制)	松崎 交作	岡田 紗枝	
	岡田 紗枝	山崎 悟		山崎 悟	久保井 勇樹	
	西岡 修平	谷上 正純		西岡 修平	野中 研人	
リハビリテーション科	医大応援医師	—	医大応援医師	—	医大応援医師	
耳鼻咽喉科	クデクス-メ-ット/村上大地	—	クデクス-メ-ット	—	—	
腎センター	—	—	—	岡本 昌典	—	
眼科	二出川 弘樹	佐々木秀一朗/松下 愛	—	二出川 弘樹	臼井 佑太/山口 雄大	
皮膚科	上中 智香子	—	—	山本 有紀	—	
泌尿器科	—	—	康原 根浩	—	柑本 康夫	

※心臓血管外科、高垣有作はリンパ浮腫外来となります。

【受付時間】 午前(全科) 8時30分～11時00分(但し、予約患者は除く)

- *腎センターは木曜日午後 保存期外来を実施。
- *月曜日午後1時から予約制で禁煙外来を行っています。
- *月曜日午後15時から予約制でCGM外来を実施しています。
- *水曜日・木曜日の午後から小倉光博医師外来にて、もの忘れ外来を行っています。(予約制)

- ▲金曜日の脳神経外科は毎月第2週目のみ山家先生に診察医が変わります。
- *当院では予約診療を行っているため、予約無しで来院された場合は、紹介状を持参されていてもお待ち頂く場合がございますのでご了承ください。
- ご紹介の際は患者さんの待ち時間短縮の為に、ご予約をお取り下さいます様お願いいたします。

診療案内

診察日：月～金曜日
 受付時間：午前8時30分～午前11時(但し、予約患者はこの限りにあらず)
 休診日：土・日・祝祭日(年末年始)
 面会時間：月～金曜日 午後2時～午後7時 土・日・祝祭日 午前10時～午後7時



交通案内

- JR和歌山駅から和歌山バス約10分「京橋」下車、徒歩すぐ
- 南海和歌山市駅から和歌山バス約5分「京橋」下車、徒歩すぐ



地域医療連携室

TEL (073) 424-5186 FAX (073) 424-5187